UNO. FILMS PRESENTS
A Yasuhide Uno Company

流浪の月（るろう）

2022年5月13日 全国公開

松本ロケ地MAP

広瀬すず　松坂桃李　横浜流星　多部未華子

本屋大賞受賞の傑作小説×監督：李相日が贈る、ある「愛」のかたち。　GAGA★

Matsumoto
Location
Map

各地案内所

(公財)ながの観光コンベンションビューロー
〒380-0835 長野県長野市新田町1485-1 長野市もんぜんぷら座4階
TEL.026-223-6050　FAX.026-223-5520

長野市観光情報センター
〒380-0921 長野県長野市栗田北河原1038-4　TEL.026-226-5626
JR長野駅構内東西自由通路「みどりの窓口」向かい(エレベーター前)
《休業日》無休　《営業時間》9:00～19:00(4月～10月)　9:00～18:00(11月～3月)

ながの観光net　https://www.nagano-cvb.or.jp

大町市観光協会
〒398-0002 長野県大町市大町3200　TEL.0261-22-0190　FAX.0261-22-5593
《営業時間》8:30～17:15　年末年始(12/30～1/3)以外は営業
https://kanko-omachi.gr.jp/

松本市へのアクセス
https://visitmatsumoto.com/access/

JRで
- 新宿から(東京・千葉から一部直通あり)→中央本線／特急約2時間30分(1時間に1本)
- 東京から(長野経由)→新幹線利用約2時間20分
- 名古屋から→中央本線／特急約2時間
- 大阪から(名古屋経由)→新幹線利用約3時間10分

車で
- 名古屋から→中央自動車道(岡谷JCT)
  長野自動車道利用で約200km松本I.C下車、松本城まで約10分
- 東京から→中央自動車道(岡谷JCT)
  長野自動車道利用で約220km松本I.C下車、松本城まで約10分

飛行機で（信州まつもと空港利用）
- 福岡→松本　90分(FDA)　●札幌(新千歳・丘珠)→松本　100分(FDA)
- 神戸→松本　60分(FDA)　●大阪(伊丹)→松本　50分(JAL)

※丘珠・伊丹は季節運航
【信州まつもと空港からJR松本駅までは、タクシー:20分／バス:25分】

松本市観光案内所
〒390-0815 長野県松本市深志1-1-1　TEL.0263-32-2814
JR松本駅構内　《休業日》年末年始　《営業時間》9:00～17:45

松本市観光情報センター
〒390-0874 長野県松本市大手3-8-13　TEL.0263-39-7176
松本市役所大手事務所1階　《休業日》年末年始　《営業時間》9:00～17:45

松本市・松本観光コンベンション協会
〒390-0874 長野県松本市大手3-8-13
TEL.0263-34-3295　FAX.0263-39-7320
《休業日》土・日・祝日・年末年始　《営業時間》9:00～17:00
https://visitmatsumoto.com/ 新まつもと物語 検索

Instagram 更新中!　MATSUMOTO.TOURISM

松本情報を発信しています!
ぜひフォローお願いします!!

発行／2022.05-5,000

UNO. FILMS PRESENTS
A Yasuhide Uno Company

流浪の月（るろう）

広瀬すず　松坂桃李　横浜流星　多部未華子

本屋大賞受賞の傑作小説×監督：李相日が贈る、ある「愛」のかたち。

2020年本屋大賞受賞、同年年間ベストセラー1位(日販単行本フィクション部門、トーハン単行本文芸書部門)に輝いた凪良ゆうによる傑作小説が原作。
10歳のときに誘拐事件の“被害女児”となった家内更紗(かない さらさ)を広瀬が、その事件の“加害者”とされた当時19歳の青年・佐伯文(さえき ふみ)を松坂が演じます。
息を潜めるように生きてきた2人が再会して選んだ道とは――？
デビュー以来、観客の心を鷲掴みにしてきた『悪人』『怒り』などで知られる李相日監督、『パラサイト 半地下の家族』のホン・ギョンピョ撮影監督、さらに『キル・ビル Vol.1』『ヘイトフル・エイト』の美術・種田陽平ら、世界で活躍する国境を越えた才能が集結します。

ストーリー　S T O R Y

雨の夕方の公園で、びしょ濡れの10歳の家内更紗に傘をさしかけてくれたのは19歳の大学生・佐伯文。引き取られている伯母の家に帰りたがらない更紗の意を汲み、部屋に入れてくれた文のもとで、更紗はそのまま2か月を過ごすことになる。が、ほどなく文は更紗の誘拐罪で逮捕されてしまう。それから15年後。“傷物にされた被害女児”とその“加害者”という烙印を背負ったまま、更紗と文は再会する。しかし、更紗のそばには婚約者の亮がいた。一方、文のかたわらにもひとりの女性・谷が寄り添っていて…

- 原作：凪良ゆう「流浪の月」(東京創元社 刊)
- 出演：広瀬すず、松坂桃李
  横浜流星、多部未華子／趣里、三浦貴大、白鳥玉季、増田光桜、内田也哉子／柄本明
- 監督、脚本：李相日　● 撮影監督：ホン・ギョンピョ　● 音楽：原摩利彦　● 製作総指揮：宇野康秀
- 製作幹事：UNO-FILMS(製作第一弾)　● 共同製作：ギャガ、UNITED PRODUCTIONS　● 配給：ギャガ

“空気感が「流浪の月」の世界観そのものでした”（李相日監督）

古き良き城下町の風情と現代の趣が不思議と馴染む、松本がもつ空気感。そして主人公・文が営むカフェのイメージにピタリとはまった松本ガス所有の建物が決め手となり、映画の8割ほどが松本で撮影されました。

李相日監督

松本は、整然とした街並みに清潔感が漂う印象です。それでいて、空間に隙間というか余白を感じます。その隙間に、光が降り注ぎ、川の音が響き、風が通っていく。時間の流れもどこか悠然としていて、古い大切な記憶を呼び覚ましてくれそうな空気感が「流浪の月」の世界観そのものでした。

ホン・ギョンピョ撮影監督

松本は、わたしにとってとても印象的な風景を持つ場所です。空、雲、美しいスカイライン。高い建物がない分、空がずっとよく見えました。マジックアワーが韓国と比べてとても長く、驚くほどに美しかったので、「流浪の月」ではその時間の撮影を特に多く行いました。大変でしたが、その時間を使って多くの美しい映像を撮ることができました。

©2022「流浪の月」製作委員会